

2022(令和4)年度 伊賀市青少年センター運営委員会 会議録

- 開催日時 2022(令和4)年7月20日(水) 午後2時から午後3時30分
- 開催場所 ハイピア伊賀4階 多目的室
- 出席委員 16人
本田委員・竹岡委員・松山委員・澤田委員・桂口委員・廣岡委員・清須委員・
増田委員・玉岡委員・松田委員・佐治委員・吉岡委員・谷口委員・城出委員・
中井委員・若山委員
- 欠席委員 6人
吉田委員・篠田委員・上山委員・中居委員・川出委員・岡山委員
- 事務局 滝川教育委員会事務局長兼伊賀市青少年センター所長
生涯学習課(東社会教育推進監兼生涯学習課長・高見係長・福永)
学校教育課(林副参事)
伊賀市青少年センター(西岡主任補導員・澤主任補導員)
- 傍聴者 1人

..... 14:00 開会

- 1.委員紹介および事務局紹介
- 2.伊賀市青少年センター所長あいさつ
- 3.会議成立の報告および会議の公開についての説明
- 4.議事

【協議事項1：2021(令和3)年度活動報告について】

－ 事務局(生涯学習課)より報告 －

資料1 ページ参照

各種会議に青少年センター主任補導員が参加し、関係機関との情報交換や活動に関する情報提供等を行った。

資料2～9 ページ参照

活動内容の説明と、実施回数等実績の報告

※資料2 ページに訂正あり 来所相談：(誤)0⇒(正)1回 電話相談：(誤)4⇒(正)3回

《委員からの意見・質問等および返答》

委員 A

：まず相談活動についての質問。私も、サポートセンターというところで電話での相談受付をしているが、相談がない状況。以前、青少年センターでもほとんど相談がなかったと聞いていた

が、去年は3回あったということで、どのような相談があったかを可能な範囲でお聞かせ願いたい。

また、補導状況を見ると、ほとんど問題なく健全な状況であることが分かるが、昔は遅い時間帯では深夜徘徊で大きな問題があったことがあると思う。深夜徘徊等の状況について気になることがあれば聞きたい。

事務局(主任補導員)

：質問①相談活動について、全部で3件あり。1件は、高校生が知人の家を訪れ、両親との関係がうまくいっておらず家に帰りたくないという相談があったという電話。学校に連絡をして対応した。もう1件は、成人している子が自宅で引きこもりの状態にあるという内容で、家族からの相談。あとの1件は、「悩んでいることがある」という一言を残して切れ、その後連絡がない状況。引きこもりの子についての相談については、父から来所での相談もあり、今年度も相談継続中。

事務局(主任補導員)

：質問②補導活動について、青少年センターの補導活動としては午後7時から回るのが1番遅い時間帯であり、それ以降の時間帯の子どもたちの情報については掴めていない状況。住民から、深夜に激しいバイクの音などが聞こえるという話を聞かせてももらうこともあるため、想像になるが、青少年のそういった状況があるかもしれない。

委員長

：深夜となると、皆さま方も出にくい状況であるが、子どもたちは夜に出てくるという状況もあり大変苦慮するところ。しっかりと見守っていきたいと思う。

委員 B

：資料7ページの「防犯情報確認場所」の中で小学生中学生など色分けをさせていただいているが、それぞれどういった内容の防犯情報であるのか。「小中学校(区)における事件・事項報告」とリンクしているのか。

事務局

：2つの情報は共通している。

委員 B

：どの地域でつきまといが多いだとか、どの地域で露出者があったなど、市街地範囲だったり山の奥であったりとかこの辺に多いということがこの図だけでは見にくいかなと思う。傾向的な情報をひとまとめに確認することができればより分かりやすいと思う。

事務局

：ご意見をいただきありがたい。次回の資料作成時に反映させたい。

委員 C

：5・6ページに街頭補導計画実施場所が掲載されているが、このほとんどが旧上野市内。他に今日の会議に出席いただいている委員のみなさんから、各地区で子どもたちがたむろしている

とか、よくここで集まっているとか、そういったような地域の情報があれば教えていただきたい。少年警察協助手員では、伊賀上野駅や佐那具駅の構内や周辺を回っていたこともある。少年警察協助手員も毎年同じような場所で補導活動を行っているが、重点的にしたほうが良い場所を教えていただきたい。幅広く活動することが可能であれば青少年センターでお願いしたいと。

委員長

：補導場所として旧上野市内が多いということで、補導場所についても今後の検討課題ということで、意見があればお聞かせいただきたい。

事務局

：街頭補導の場所は常に今の状況に合わせて変えていく必要があると考え、常に検討しているところですが、現在は旧上野の中心市街地で子どもたちの遊ぶ場所になっているゲームセンターやショッピングセンター、大型店舗を中心に回っている状況。旧上野以外の地域でも、同じように子どもたちが集まりやすい場所や街頭補導で回った方がいいと思われるところがあれば意見や情報などを頂戴したい。

委員長

：伊賀市全体としての動きについてはこれからの課題ということにさせていただきたい。各地区においては、関係機関の方々がいろんなイベント等については補導活動などをされていると思う。その辺も含めた報告があるかと感じるため検討いただきたい。

(特に意見なし)

【2021(令和3)年度 小中学校(区)における事件・事故報告について】

－ 学校教育課より報告 －

年度の前半に、青山方面で露出等の案件が複数回カウントされている。また、付きまといや声かけ等その他事案があった。

年度の後半にも声かけ事案がいくつか確認されている。「おいでおいで」と呼ばれたり、「パンはいらないですか」や「チョコレートをあげる」といった声かけがあり、声かけの内容自体はそれほど危険性の高いものではないという場合も多いが、基本的に児童生徒が怖い思いをしたと言った場合は保護者等から学校へ、学校から教育委員会に連絡が入り、警察や青少年センター、該当の学校と近隣の学校に情報を伝えている。そして、青少年センターのパトロールをしたり、該当校保護者にはメール等で注意喚起のための情報提供をし、子どもたちの見守りにつなげている。

令和3年度の集計値としては、不審者が29件(前年度比-3件)。交通事故が15件(前年度日+4件)。交通事故に関しては、自転車に乗っていて自分で転ってしまうという場合や、車と接触するなどの事故が多くなっており、登校中に4件、下校中に3件上がっている。放課後については小学校中学校それぞれ2件ずつ起こっている。

交通事故に関しては、交通安全プログラムを利用して、校区の危険箇所を申請し、その箇所

について、警察や道路管理者、教育委員会、学校等で合同点検を行い、危険箇所を減らす取り組みを進めている。

一番多いのがその他事案 11 件となっている。中身としては、後ろからついて来られて怖い思いをしたというものが多いのと、スマホと向けられた・写真を撮られたかもしれない、といった事案。次に多いのが声かけ事案 10 件。その次が露出つきまといとなっている。

不審者等に関わっては、「防犯情報」という形で情報提供しながら、生徒の安全な登下校に繋がるように地域等でも見守りの方をしていただいております。今度ともよろしくお願ひしたい。

《委員からの意見・質問等および返答》

委員 D

：声かけ事案の例で、「パンいりませんか」というのがあったと聞いた。以前、花ノ木地域で、手押し車をひいて「パンいりませんか」と声をかけて回っている人を 2 回ほど目撃したことがある。関連しているのか分かれば知りたい。

委員長

：地域でしっかりと見守りしていきたい。特に登下校の時の不審者。昔は近所の人に挨拶をしたり、近所の方が声掛けをしたりするが普通だったが、今は挨拶をただけで不審者と間違われてしまったり、難しい世の中になってきている。

学校や地域の方がともに連携して子どもたちを見守っていただきたいと思っている。

委員 A

：保護司をしており、青山に住んでいる。青山での不審者（露出）が続いていることが気になっている。どんな対応をされたのか、解決したのか、聞かせていただきたい。

事務局(主任補導員)

：防犯情報があるたびに、青少年センターではその地域の巡回をしており、警察も同じく回っている。

委員

：昨年度前半に不審者（露出）が立て続けにあった。児童・生徒が気づいて保護者に伝えて学校に連絡があり、学校からは保護者に注意喚起としてメール配信をするとともに、教育委員会・警察に連絡をして巡回をしてもらっている。桐ヶ丘地内で発生した件については市民センターにも連絡し、下校時に毎日所々に立っていただいたり、下校時間にあわせて青パトで回っていただいている。今年になってもまた発生しており根本的な解決には至っていないが、予防的対策をしている。

委員長

：地域の方と一緒に登下校をしっかりと見守っていただきたい。

【協議事項 2：2022(令和 4)年度活動概要について】

－ 事務局(生涯学習課)より説明 －

資料 10～14 ページ参照

努力目標および目標達成のための方策の説明

街頭補導については、12・13 ページの計画のとおり実施予定。

青少年相談窓口の周知のため、市広報・ケーブルテレビの放送等を活用する。

《委員からの意見・質問等および返答》

委員 E

：伊賀市青少年育成市民会議では合併前 6 市町村で活動をしてきたが、今年度組織の改編を行い、「環境浄化部会」を設置し、青少年センターとの連携をすることとしている。

青少年センターとしては、市民会議からの派遣要請にこたえる以外に、市民会議とどのような連携ができるのかお聞かせいただきたい。お互いが協力しあって高めあっていきたいと考えている。

事務局

：各地区市民会議で、強調月間にあわせてパトロール等をしていただいているので、その活動に青少年センターから参加させていただくなど、連携できる内容はこれから検討したい。

委員 E

：重点的に密集地である旧上野市の地域では、子どもたちの数も多いし、事案も多いと思う。

環境浄化部会としてどのような連携ができるのか考えたいと思っており、いい案や取り組み状況などお示しいただき協力できたらと考えている。

委員長

：関係機関の連携についてここで確認させていただくことができた。

委員 D

：1 年以上前にあった事案。大型店舗に買い物に行った際に、学校の授業がある時間帯に中学生の女の子が 2 人いた。うち一人は「いじめられるので学校に行きたくない」と言っていたため詳しく話を聞いていたところ、担任の先生から生徒の携帯へ電話があり、替わって先生と話をした。先生が迎えに来るまで一緒にいて、先生に引き継いだが、自分がとった対応はそれでよかったのか、という疑問がずっと残っていた。この場でみなさんのご意見をうかがえたらと思う。

委員長

：気がついたときに、そのあとどうしようかなと思うことはあると思う。センターからいい提案があれば伺いたい。

事務局(主任補導員)

：お声掛けいただいたことに感謝する。子どもたちにとっては、周りの大人が自分たちのことを気にかけてくれているということを知るといことは、心強いことで大事なことだと考える。関係性がぶ

つと切れてしまうとどうすればよいかわからなくなる。つながりがある、見守られているということを感じることで、力強く次に進んでいくことができると思う。お声掛けいただいたことはありがたい。今回は学校から連絡がついたのでよかった。学校がわかれば学校にご連絡いただくなどしていただければよいかなと思う。良いか悪いかは個人では言えないが。

委員 C

：少年警察協助手員をしていて声掛けをさせてもらうことがある。バイクの二人乗りをしていてナンバープレートを曲げているような、見た目が怖そうな若者にどのように声掛けしようか迷うときがあるが、声をかけたら案外気さくに話ができることが多い。一步踏み出すということ、委員 D さんの行動はすばらしい。子どもたちはどう感じているかわからないが、周りの大人が気にかけているということで子どもたちがいい方向にむかえばよいと思う。

委員長

：みなさんも気になる子どもたちに出会ったときには、躊躇することなく声をかけていただけたらと思う。

【その他】

事務局

：補導活動場所のことでさきほど聞かせていただいたが、本日いろんな機関・団体の関係の方に来ていただいている。せっかくの機会なので、この地域にこんなところがある、とか、この地域には該当場所がない、など、何でもいいのでお聞かせいただきたい。

事務局

：補導場所は、原則的には 13 ページに掲載しているような場所になっているが、追加したほうがよい場所など、今でなくてもよいので、ご意見・ご協力を賜れたらと思う。

相談窓口についても、件数が多ければよいというものでもないが、学校へのチラシの掲示等ご検討いただける余地があるかどうかなど、周知のためにご協力いただける部分があれば教えていただきたい。

委員 F

：夏休み前や 2 学期迎えるころに不登校になる子どもが多い。学校では、三重県で作成している相談窓口案内を配布している。悩んでいる保護者は多いが、自分から相談できない人も多いと思う。目につくところへ置かせてもらえたら、相談してみようかと思ってもらえるかもしれない。

事務局

：学校のことについては、担任の先生や学校に相談する機会が多いかと思うが、選択肢を増やすという点で、青少年相談窓口も相談先の一つにいただけたら。

委員 G

：巡回予定の場所に柘植が入っていない。三重交通のバスも新堂で終わっている。

青少年を育てる会でも駅前での補導などを実施しているが、駅前でたむろする様子は見かけな

い。新堂駅前にオークワがあるが、子どもだけで利用する様子はほとんど見られない。巡回時には、新堂から柘植まで回ってほしい。

委員 E

：島ヶ原駅も載っていない。どういう観点でルートを決めていただいているのかは知らないが、この地点のみではなく「経由していく」という意味あいでも記載されていると思う。車で巡回であれば色々なところを回ることができるので、よく検討して幅広く回っていただきたい。

委員 E

：資料にハザードンについての広報記事も載っているが関係はあるのか？地元で防犯情報があった場合にハザードンの情報に載せることができるのか？

住民のみなさんに、「こういう事案が発生した」と犯罪情報については広く知らせないほうがよいのか、今のところ火災情報とコロナ関係の通知が多いが、防犯情報などにも活用いただけたらと思う。

センター所長

：市としては、ハザードンを利用して情報を流していきたいと考えており、自治会等の情報発信にも利用していけたらと思っている。多くの方々にダウンロードしていただき、情報発信・受け取りに活用いただきたいと考えている。

委員 C

：2年前からのコロナ感染拡大によるマスク生活でのストレスなどあると思うが、学校内での状況わからないので教えていただきたい。少年警察協助手として活動する他、上野児童福祉会連合会で子どもたちを対象とした事業をしているが、子どもたちの心技についてはどのような状況であるのか、マスク生活から起こりうる影響等について教えていただきたい。

委員 H

：子どもたちには、基本的な感染対策については身につけており、マスクの着用、黙食、手洗い、換気、消毒は自然とできるようになっている。逆に、熱中症対策で野外での活動や登下校時に外すようにと言っているが、マスクを取らない子が多い状況。異学年の交流はこれまで避けており、全体を集めての集会や、高学年が低学年へ指導や交流（身支度や学校について教えたりする）をすることもできなくなっている。育ちの部分では、もっと力をつけたいけれど、活動の制限の中でつけられていない部分もある。子どもたちはできる範囲の手立てを使って、リモートで集会をしたり、画面を通して交流をしたり、工夫を凝らしながら活動をしている。

委員 F

：感染対策をしながら教育活動を進めることになっているので、学校では様々な工夫をしながらできることをしている。学校は、つながりや交わりの中で学ぶことが多いので、コロナによる影響は大きい。本来経験すべき時期に経験できないまま、というのが今後影響してくるかという危惧している。

また、子どもだけでなく、指導する先生方も3年指導できていない状況（プールなど）。教

育実習など、大人も経験を積まずに実践に入っていることがあるため、教える立場の大人にも影響はでていると考えている。教育活動自体は形を変えて進めている状況。

委員 E

：小学 1 年生、中学 1 年生、高校 1 年生など、初めて出会う時からマスクをしているがゆえにお互いの顔が分からない状況（お互いに目しか見えていない状況）。接触や交流する上でいろいろな弊害がでていると思っているが、先生方としてはどのように考えておられるか。表情がからんで人間関係が構築されていくと考えているのだが、何か感じることはあるか。

委員 F

：マスク生活でのコミュニケーションの問題は、教員同士でも同じことが言える。
東小学校で勤務して 5 年目になるが、年々子どもたちはおとなしくなっていると感じている。以前は夜に子どもがプールに忍び込むということもあったが、今は全くそんなことがない。
コロナ禍でもなんとか工夫しながらやってはいるが、本来の教育活動からすれば歯がゆいし、もっといろいろなことをさせてやりたいという気持ちが大きい。不登校が多くなっているという問題もある。

委員 E

：スマホや画面ばかりを相手にして、友達との交流がない状況にあるように思う。ネットを介した犯罪に巻き込まれたりトラブルにあったり。学校からも要請いただければ市民会議としてもできることをしていきたい。

委員長

：その他については意見交換会でだしていただけたら。

事務局

：本日いただいたご意見を、今後の活動に繁栄させ、継続して取り組んでいきたい。

－ 議事終了 －

..... 15：30 閉会